

令和 2 年度

学校図書館の活用にかかる

実践事例集

岩手県学校図書館協議会

令和2年度実践事例集の発刊にあたって

岩手県学校図書館協議会 会長 中村 雅彦

この度、本協議会の研究活動振興事業として「学校図書館の活用にかかる実践事例集」を発刊することができました。ご協力いただいた皆様のご尽力に対しまして、厚く御礼を申し上げます。

この実践事例集には、各地区SLAより小学校1事例・中学校1事例、合計35校の実践をお寄せいただきました。学校図書館の活用につきましては、各学校で大切に取組まれてはいるものの、互いに実践を交流したり協議したりできる機会は多くありません。この実践事例集を手掛かりに、「読書指導」「情報活用」「学校図書館運営」の各領域から、自校の学校図書館の改善が図られ、児童生徒にとって親しみやすく毎日通いたくなる学校図書館、読書意欲を高め、学びに役立つ学校図書館づくりのヒントを得ていただければ幸いです。

学習指導要領の総則には「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の主体的、自発的な学習活動や読書活動を充実すること」と示されております。これを受けまして、今後も本協議会では、読書活動・研究活動充実のための取組、全国SLAとの連携による調査・要請活動等を通して、学校図書館活用の充実をめざしてまいります。

関係各位のご協力に改めて感謝を申し上げ、実践事例集発刊にあたってのご挨拶とさせていただきます。

令和3年3月吉日

目 次

◆ 小学校 ◆

「進んで読書に親しむ児童を目指して」

盛岡地区SLA 盛岡市立見前南小学校…1

「子どもたちの読書意欲の向上を目指す取り組みを通して」

岩手地区SLA 岩手町立川口小学校…2

「読書活動の充実を目指して」(読書指導領域)

八幡平地区SLA 八幡平市立寺田小学校…3

『読書の楽しさに気づき、進んで読書をする児童』をめざして」

雫石地区SLA 雫石町立雫石小学校…4

「読書に親しむ子どもを育てるための取組」(読書指導領域)

紫波地区SLA 紫波町立赤石小学校…5

「図書ボランティア・委員会活動・外部組織との連携を大切にした図書館運営」

花巻地区SLA 花巻市立宮野目小学校…6

「進んで読書に親しむ子どもを育てるために」

遠野地区SLA 遠野市立鱒沢小学校…7

「児童の読書意欲向上を図る取り組み」

北上和賀地区SLA 北上市立和賀西小学校…8

「子どもたちの読書意欲向上を図る取り組みを通して」

胆江地区SLA 奥州市立岩谷堂小学校…9

「本に親しむ子どもの育成 ～本に親しむ活動の工夫と図書室の有効活用を通して～」

一関地区SLA 一関市立東山小学校…10

「コロナ禍の中における読書活動の推進」

陸前高田地区SLA 陸前高田市立米崎小学校…11

「豊かな読書活動の展開」

大船渡地区SLA 大船渡市立大船渡北小学校…12

「子どもの読書意欲を高める取り組み」(読書指導領域)

釜石・大槌地区SLA 釜石市立鶴住居小学校…13

「読書意欲を高め、読書活動を活発にさせる取り組み」

宮古地区SLA 山田町立山田小学校…14

「本に親しみ、進んで読書をする習慣を身につけさせる取り組み」

岩泉地区SLA 岩泉町立釜津田小学校…15

「読書への興味をもたせ、読書経験を広げるために」

久慈地区SLA 洋野町立種市小学校…16

「生涯にわたる読書習慣を育てる図書館教育の工夫」

二戸地区SLA 二戸市立仁左平小学校…17

◆ 中学校 ◆

「図書館運営について」

盛岡地区SLA 盛岡市立見前南中学校…18

「読書推進を目指す活動の工夫」(読書指導領域)

岩手地区SLA 岩手町立川口中学校…19

「読書活動の充実を目指して」(読書指導領域)

八幡平地区SLA 八幡平市立安代中学校…20

「館内ディスプレイの工夫」

雫石地区SLA 雫石町立雫石中学校…21

「読書活動の充実を目指して」

紫波地区SLA 紫波町立紫波第一中学校…22

「読書活動の推進を目指して」

花巻地区SLA 花巻市立花巻北中学校…23

「生徒の読書意欲向上を目指して」

遠野地区SLA 遠野市立遠野東中学校…24

「図書館利用者数を増やすための取り組み」

北上和賀地区SLA 北上市立飯豊中学校…25

「読書活動の充実を目指して」

胆江地区SLA 奥州市立前沢中学校…26

「読書に親しむ生徒の育成 ～学校図書館の活用方法～」

一関地区SLA 一関市立磐井中学校…27

「本はともだち」

住田地区SLA 住田町立有住中学校…28

「読書推進を目指す活動の工夫」(読書指導領域)

陸前高田地区SLA 陸前高田市立高田東中学校…29

「豊かな心を育むために」

大船渡地区SLA 大船渡市立大船渡中学校…30

「図書館ボランティアと連携した図書館運営について」(管理運営領域)

釜石・大槌地区SLA 釜石市立大平中学校…31

「良書にふれ、本との出会いを楽しむ生徒の育成のために」

宮古地区SLA 山田町立山田中学校…32

「読書に親しむ態度や読書習慣を育成する取り組み」

岩泉地区SLA 岩泉町立釜津田中学校…33

「学校図書館の活用を軸とした読書指導」

久慈地区SLA 久慈市立宇部中学校…34

「生徒の読書活動を支える図書館を目指して」

二戸地区SLA 軽米町立軽米中学校…35

「進んで読書に親しむ児童を目指して」

盛岡地区S L A 盛岡市立見前南小学校

1 学校図書館の概要

本校は、児童数306名、13学級の中規模校である。図書室は1階にあり、蔵書冊数は約7,500冊である。また、各学級に分館図書として30冊ほど配架しており、本がいつでも身近にある環境づくりをしている。

委員会による貸し出しは業間と昼休みに行っている。週末は2冊の貸し出しを行い、家庭での読書の啓蒙を図っている。昨年度後半より、蔵書管理がバーコードシステムに移行し、パソコンによる貸出業務や蔵書登録等が行われている。

保護者や地域の方による図書ボランティア「にこにこパラダイス」が組織されており、児童の読書活動推進のため積極的に活動している。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書・すきま読書の取組

毎週月曜日と金曜日に朝読書の時間を設定し、全校で15分間の読書に取り組んでいる。また、時間がある時はいつでも本を手にとってすきま読書ができるように、机脇に本袋をかけておくようにしている。

(2) 読書週間の取組

読書週間を年2回（6月と11月）設定している。学級毎に「読書の木」を掲示し、本を借りたら各自の葉っぱにシールを貼ったり、葉っぱにお気に入りの本の題名を書いて紹介したりして、読書活動への意欲づけを図っている。

(3) 親子読書の推進

夏季休業には親子読書に取り組み、家庭での読書の推進を図っている。取り組んだ様子は休み明けに校内に掲示し紹介している。

(4) 図書館整備

児童が興味を持って本を選べるように「おすすめの本コーナー」や「新刊図書コーナー」を工夫したり、本の返却がしやすいように表示を分かりやすくしたりして、図書館を利用しやすいように整備している。

(5) 図書館ボランティアによる活動

図書ボランティア「にこにこパラダイス」は「にこパラさん」の愛称



と呼ばれ、年間を通して週1回低学年を中心に朝の読み聞かせを行っている。読み聞かせをした本は、図書館の「にこにこパラダイスコーナー」に置かれ、子ども達に大人気である。また、職員にアンケートをとって本の紹介を行い、児童の読書への興味を広げている。



3 成果と課題

(1) 成果

- ・読書祭りや図書ボランティアによる読み聞かせ、お薦めの本の紹介などが、児童の読書への関心の高まりや読書活動への広がりにつながっている。

(2) 課題

- ・読書意欲が持続するように、図書館だけでなく各学級・学年で日常的に本の紹介や読み聞かせをするなどの取組をしていく必要がある。
- ・週末や読書祭りは図書館が混雑し密になってしまうので、感染症防止と読書の推進のバランスがうまくとれるような工夫をしていく。

1 学校図書館の概要

本校は、児童数 128 名、教職員 20 名の中規模校である。

図書室は、2 階のオープンスペースにあり、パソコン室と隣接している。そのため、調べ学習等でもよく利用されている。2020 年の蔵書数は、約 5900 冊である。開館は、業間休みと昼休みで、図書委員会が、本の貸し出しや図書の整理などを行っている。なお、図書委員会と図書支援員（週 2 勤務）を中心に、児童が利用しやすい図書室の環境整備活動・読書活動の推進に努めている。

2 具体的実践内容

（1）図書委員を中心とする読書活動の推進

①読書意欲を高めるための読書スタンプラリーとおすすめの本の紹介

1 学期の読書週間に合わせて取り組んだ。目標冊数と同じ数のスタンプ欄のあるカードを作成し、児童に配布した。児童は読書後に図書委員にスタンプを押してもらい、目標冊数を達成したら、達成賞をあげている。低・中・高学年によって目標冊数を変えているため、どの学年も達成しようと意欲的に取り組んでいる。今年度はさらに、児童朝会を利用して、図書委員が 1 冊ずつおすすめの本の紹介も行った。

②多くの種類の本に触れるための読書ビンゴ

2 学期の読書週間では、多くのジャンルの本に親しんでもらおうと、分類番号をかけたビンゴ形式のカードを使って取り組んだ。図書委員会の児童が、分類番号「0」から「9」が、どのようなジャンル本であり、その中でのおすすめの本を放送で紹介し、図書室にも掲示を行った。ビンゴが達成されると、ビンゴ賞をもらえるようにした。



③多読賞の表彰

毎学期に、各学年たくさん読書をした児童上位 3 名に、多読賞の表彰を行っている。図書館だよりや学校報で紹介し、家庭にもお知らせしている。

（2）長期休業における読書カード

長期休業中にも読書をすすめるために、「読書カード」を全校児童数分配布している。片面には、休業中に読んだ本の題名、片面には、おすすめの本の紹介をかくようにしている。長期休業明けには、各学級 3 点ずつを選び、図書室に掲示している。

（3）読み聞かせボランティアによる読み聞かせ

毎週水曜日に、10 分間、各学年に読み聞かせをしていただいている。その学年にふさわしい本を選んでいただいているので、児童も楽しみにしている。

（4）岩手町立図書館巡回貸し出し「おおぞら号」

毎月 1～2 回、町立図書館の巡回バス「おおぞら号」が来校し、児童と学級への貸し出しを行っている。

（5）絵本給食

絵本の中に出てくる料理を給食に出していただいた。その日に合わせて、昼の放送で絵本の読み聞かせを行った。

3 成果と課題

〈成果〉

- ・図書委員による読書スタンプラリーや、読書ビンゴの取組によって、多くの児童が図書室に通うようになったり、今まで手にしなかったジャンルの本に触れる機会が多くなったりした。
- ・絵本給食の日を通して、絵本と現実とをつなぐ楽しい体験をし、絵本への関心が高まった。

〈課題〉

- ・読書量の個人差があり、少ない児童への意欲の持たせ方が課題である。

1 学校図書館の概要

本校は、全校児童 55 名の小規模校である。図書室は、南西向きで明るく、校舎の 2 階に位置している。今年度は図書の日焼けを防ぐため、これまでのカーテンをブラインドに替えた。学年関連図書の配架や新刊図書の紹介、季節に応じた図書館掲示など、図書館司書による工夫がいっぱいの楽しい図書室となっている。

2 具体的実践内容

（1）「てら 100 読書」の取り組み

「いわ 100」のように、読書を促すために本校独自に「てら 100」を作成している。学年ごとに必読図書を決め、読んだら表に物語シールを貼る。廊下に掲示してあり、人気の本や児童一人ひとりの読書量が一目で分かる工夫をしている。シールがいっぱいになると読破賞がもらえるため、児童の励みとなっている。

（2）読み聞かせの取り組み

地域の図書ボランティアの方々による読み聞かせを、毎月、行っている。今年度は昨年度よりボランティアの方が増えた。学級を 2 グループに分け、少人数で読み聞かせをしている。一緒に本を読んだり、クイズに答えたりと、ボランティアの方とふれ合いながら楽しい時間を過ごせる。読んでもらうだけでなくボランティアの方々に会えることも楽しみとなっており、続けていきたい取り組みである。また、図書館司書によるブックトークや読み聞かせも行っている。たくさんの本に出会えるように機会確保に努めている。

（3）読書郵便の取り組み

読書月間期間に、お薦めの本を書いて、図書室のポストに入れると、図書委員が受取人に届ける「読書郵便」の取り組みを行っている。また、冬季休業中に読んだ本の一言感想を年賀状に書き、担任あてに送る「読書年賀状」の取り組みも行っている。どちらの郵便物も学校内に掲示し、さまざまな分野の本に興味を持てるように意欲喚起に務めている。

3 成果と課題

（1）成果

- ・図書室の環境整備により、児童が進んで図書室に通うようになった。
- ・「てら 100」の推進、図書ボランティアによる読み聞かせ、読書郵便などの取り組みにより、読書体験を広げることができた。

（2）課題

高学年になるにつれ読書量が少なくなる。また、読書に割く時間が少なくなる。全校読書の時間を設けるなど、読書時間を確保する必要がある。



〔図書室の窓〕



〔てら 100 読書の
がんばり表〕



〔読み聞かせを
楽しむ子どもたち〕

1 学校図書館の概要

本校は、全校児童278名の中規模校である。今年度は、「家読、週末読書を推奨する」「図書室に行く機会を増やし、多くの良書に出会わせる」を重点に運営を行っている。蔵書冊数は17410冊で、子どもたちや先生方の要望も取り入れながら、各分類のバランスを考えた図書の購入を行い、さまざまなジャンルの図書を子どもたちに提供している。校舎が、低学年校舎と高学年校舎に分かれているため、図書室も2カ所に設置している。

2 具体的実践内容

(1) 校内における読書指導

①日常的な読書の奨励

- ・毎週月曜日と、集会のない水曜日を「朝読書」の時間として設定している。また、すき間時間などいつでも読書ができるよう、机の横の手提げかばんの中には常に本が入っている。
- ・毎週土、日は、週末読書の日に設定し、週末には全校児童全員が本を借りている状態になっている。また、音読カードには、土、日に読んだ本の題名を記入している。

②図書委員会の活動

日常活動の他に、年2回のイベントと、10月の図書まつりに合わせた活動を行っている。イベントでは、さまざまなジャンルの図書に親しんでもらえるような読書カードやビンゴカードなどを作成し、目標冊数を達成したら図書委員作成のしおりをプレゼントするなど、児童が楽しみながら読書ができる工夫をしている。図書まつりでは、町の「お話の会」と合わせ、1時間のうち前半は図書委員が考えたクイズを行い、後半は読み聞かせボランティア「おはなしの雫」の皆さんによる読み聞かせを各学年毎に行い、司会進行は図書委員会の児童が行った。



【図書委員会による読書クイズ】

(2) 家庭との連携

10月の図書まつり前の1週間を家読週間に位置づけ、テレビやゲームを消して親子で読書をする取り組みを行っている。最終日には、保護者の方からもコメントを記入してもらうなど、家庭と連携して児童の読書習慣の育成を図っている。

(3) 図書ボランティアの活動

平成30年度に保護者が中心となった読み聞かせボランティア「おはなしドロップ」が発足し、朝読書、昼休み、季節のイベントなどで読み聞かせを行っている。また、町の読み聞かせボランティア「おはなしの雫」に、毎月4回の読み聞かせをお願いしている。他にも、PTA 図書部による年2回の読み聞かせも行っている。図書室の環境整備については、学校図書支援ボランティアの「しずくいし図書隊」の方々が、月1回程度、本の装丁や修理、たなの整理整頓に来てくださっている。



【「おはなしの雫」による読み聞かせ】

3 成果と課題

○家読や読み聞かせがきっかけとなり、今まで読んだことのないジャンルの本を読んでもみようという児童もたくさん出てきている。

○週末読書が定着し、土、日は必ず読書をする習慣が身についた。

●読書量の個人差や、手に取るジャンルの偏りがまだ見られる。多くの本に興味をもつような工夫を行っていきたい。

「読書に親しむ子どもを育てるための取組」(読書指導領域)

紫波地区 紫波町立赤石小学校

1 学校図書館の概要

本校は、校是「志気・清泉」の達成に向け、学校教育目標として「かかわり合って活動する子ども(人間関係形成力の育成)」「めあてをもって学習する子ども(確かな学力の育成)」「相手を思いやり、たくましい子ども(豊かな人間性の育成)」「健康でねばり強い子ども(健やかな身体の育成)」の実現を目指して、学校教育を推進している。その中の「相手を思いやり、たくましい子ども(豊かな人間性の育成)」の達成に向け、楽しんで読書しようとする態度を育てることを目指し、「読書銀行赤石プラン」という学校独自の取組を中心に、読書活動・音読・朗読を実践している。

本校の図書館は2階にあり、同じ階の3・4年生はもちろん、階段のそばにあることから、1階の低学年、3階の高学年にも足を運びやすいところに位置している。図書館運営にあたっては、長年にわたって継続されている読み聞かせボランティア「きらり」と町から派遣されている学校図書コーディネーターの支援もいただきながら推進している。

2 具体的実践内容

(1) 図書委員会の活動

図書委員会は、日常活動として、図書の貸し出しと図書整理を行っている。また、年に2～3回、おすすめの本紹介、低学年への読み聞かせを行っており、秋の読書週間には、全校で「読書ゆうびん」に取り組んでいる。

「読書ゆうびん」は、兄弟学級同士の児童がお互いに本を紹介し合う活動で、専用のはがきに、自分がおすすめる本の紹介文や絵などを記入し、図書館に設置されたポストへ投函し、図書委員会が本人に配達する流れになっている。取組期間中は、はがきを誰に出しても何人に出しても良いことになっている。

(2) 図書ボランティア「きらり」による活動

朝読書の時間に、各学年に向けて読み聞かせをしていただいている。今年度は、感染症拡大防止対策として、密を避けるために、学年ごとではなく、学級ごとに各教室で実施していただいた。また、季節ごとに図書館内の装飾をしたり、図書ボランティア通信を作成して発行したりして、本校児童の読書意欲を高めることに貢献していただいている。

(3) 学校図書支援員による活動

毎週水曜日の午後に来校し、図書の専門的な知識を生かして、本の分類や配架、テーマにあった本の紹介、選書の補助などを行っている。

3 成果と課題

【成果】

- ・図書ボランティア、学校図書支援員、図書委員会のおかげで、図書館の環境が整備され、使いやすい図書館が保たれている。
- ・図書ボランティア、学校図書支援員、図書委員会の各々の取組が功を奏したことで自粛傾向の1年であったこともあって、全体的に読書量を増やすことができています。
- ・ボランティアの方に来校していただいた読み聞かせ活動は、感染拡大の点から危惧されたが、いろいろと工夫して実施していただき、ありがたかった。

【課題】

- ・読書量は増えたものの、あまり本を読まない児童は固定化しており、そういった児童にもっと読書に親しんでもらうための取組が今後の課題となる。
- ・読書量の多い児童の中には、気に入ったシリーズものばかり読んだり、似たような傾向の本ばかり読んだりして、読書の幅を広げられない子が結構いる。そのような児童が他の分野の本に興味をもってもらうための取組を考えていきたい。
- ・図書委員会の「読書ゆうびん」では、おすすめの本を紹介してもらった後は、それきりになりがちだったので、その本を読んだ感想をそえて返事を出すようにすることで、取組に深まりをもたせていきたい。

1 学校図書館の概要

本校は、全校児童 356 名の学校である。図書館は、校舎 1 階の西側にあり、天井が高く、窓が多く、開放的な雰囲気のある場所である。また、図書ボランティアが、図書館内の環境整備等を月 2 回程度、読み聞かせボランティア『紙ひこうき』が月 1 回程度を目安に活動を行っている（今年度はコロナ対策のため、変更あり）。

本校の図書館は、東側の教室から離れた場所ではあるが、担任が意識的に子ども達を図書館に連れて行き、返却や貸し出しをしたり、図書館指導をしたりしている。また、昨年度まで貸し出し用パソコンが 1 台だったため混雑することがあったが、今年度はもう 1 台増えたため、作業の効率化が図られ、業間休みや昼休みの貸し出しの利用促進につながっている。



＜明るく開放的な図書館＞

2 具体的内容

(1) 図書ボランティアによる読み聞かせや図書館環境整備の活動

読み聞かせボランティア『紙ひこうき』による読み聞かせに取り組んでいる。朝学習の時間 10 分程度の内容であるが、学年に応じた本を選定してくださり、子ども達は楽しみにしている。また、月に 2 回程度、図書ボランティアが本の整理や修繕、図書館内の環境整備を行っている。

(2) 委員会活動

図書委員会では、日常の当番活動の他に、公共図書館から借りている本を「学級文庫」として学級別一覧表を作成し、本の配付・回収作業を行っている。また、学期ごと（1・2 学期）に多読賞の表彰活動もしている。

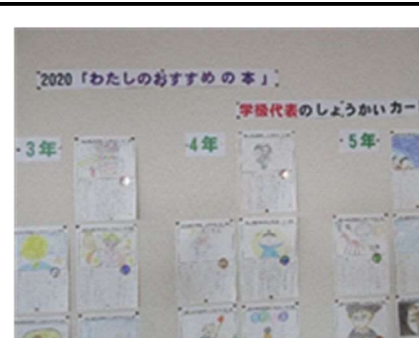
今年度は 11 月の読書月間に、「先生方のおすすめの本」のコーナーを設置し、更なる利用促進を図る活動も行うことができた。

(3) 宮野目地区教育振興推進協議会との連携

協議会では、読書推進活動の一環として、「読書標語」や「読書感想画」の企画や応募、選定等を行っている。入賞した作品は、地区の文化祭や校内に掲示し、図書の利用促進を共同で進めている。また、年間目標冊数を達成した児童には、教振会長名で多読賞の作成や表彰活動もしている。



＜「先生方のおすすめ本の紹介」＞



＜読書感想画の紹介＞

3 成果と課題

(1) 成果

- 宮野目地区教育振興推進協議会、公共図書館等の外部組織と連携すると共に、校内では、図書ボランティアと協力したり、図書委員会の活動を促進させたりしながら、読書活動の推進を図ることができた。

(2) 課題

- 外部との協力体制は充実しているが、継続して図書館指導を行ったり、環境整備や新刊本の受入れや維持管理を担ったりする図書館司書が不在のため、計画が思うようにいかないこと、また、ボランティアの協力者が少ないことが現状である。

「進んで読書に親しむ子どもを育てるために」

遠野地区 SLA 遠野市立鱒沢小学校

1 学校図書館の概要

全校児童数25人に対して、蔵書数は4,207冊。図書のジャンルも様々である。

本校は家庭読書も重要視しており、家庭学習とは別に10分以上の読書を勧めているため、子どもたちは、いつも図書バッグの中に読む本が入っているようにしている。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書時間

月曜日と水曜日の週2回、8時15分から8時25分の間、朝読書の時間を確保している。

時間前には全員が本を選んで席に着き、静かに読書する。本に浸る時間をもつことで、読書量が増えるだけでなく落ち着いて一日の生活がスタートできている。

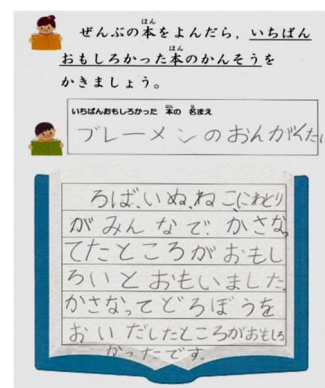
(2) 宝の本と必読図書

学期ごとや年間の読書目標冊数の提示とは別に、必読図書を学年ごとに設定し、学年始めに子どもたちに提示して意欲付けをする。必読図書は、国語の教科書に掲載されている関連図書を基に決めている。そして、学年の終わりに、読み終わった本の中から1冊選び、短い感想を書くことにしている。冊数に縛られず、じっくり読み返してほしいからである。

さらに、必読図書の中から低学年・中学年・高学年ごとに10冊の「宝の本」を選んでいる。図書委員会は「宝の本」を読んだ子に、本を読んでいれば答えられるクイズを出し、正解すれば手作りの葉をプレゼントする活動を、6月に1週間行っている。ふだん図鑑しか手に取りたがらない子も良書にふれる機会が増え、中には気に入った本を何度も借りて読む子もいる。

(3) 図書ボランティアと職員による読み聞かせ

保護者から図書ボランティアの希望者を募り、1週間置きの水曜日、職員朝会をしている時間に、本の読み聞かせをしていただいている。秋の読書週間には、職員も朝読書の時間に読み聞かせをしている。子どもたちはどちらの読み聞かせも楽しみにしている。



3 成果と課題

【成果】

- ・低学年と中学年は図書室に行く回数が多く、読書量が増えている。
- ・必読図書をほとんどの子が読み終え、同じ作者の本にも興味を示して借りている姿が見られた。

【課題】

- ・厚い本を読み通せる子が少ない。部分的に紹介するなど、本の入り口を広げる必要を感じる。

1 学校図書館の概要

本校は、全校児童72名の小規模校である。「学校図書館に親しむことを通して、読書の楽しさや喜びを味わわせ、豊かな心情を養う」「たくさんの本に出会わせることにより、豊かな表現力や言語の力を育てる」ことを重点に図書館運営を行っている。蔵書冊数は6057冊で、児童・教職員等の要望を取り入れながら、各分類のバランスに留意した図書購入を行い、様々なジャンルの図書を児童に提供している。

2 具体的実践内容

(1) 読書目標・おすすめ図書の設定

学年毎に図書室から借りる目標冊数(1・2年80冊、3・4年50冊、5・6年35冊)を設定し、児童が図書室に足を運ぶように工夫している。また、各学年の担任がそれぞれの学年で必ず読んでほしい本を設定し、児童が1年間で読破するように働きかけている。

(2) 隙間時間読書等の取り組み

図書祭り期間中の朝学習は、読書に取り組むようにしている。また、日々の学習・活動の中で生じた隙間時間には、読書に取り組むように働きかけている。

(3) 図書祭りの実施

6月と11月に図書委員会主催の「図書祭り」を実施している。今年は図書委員会児童のアイディアを生かし、「読書の木」と「読書クイズ」に取り組んだ。読書の木の取り組みは、写真のような形で行ったが、みんなでたくさんの本を読もうという意識を作り出すことができた。また、読書クイズでは、クイズに取り組むことによりあまりなじみのない本にも目を向けさせることができた。



(4) 親子読書の実施

夏休みと冬休みには、親子読書カードを使って親子読書に取り組んでいる。「親子で同じ本を読み、感想を話し合う。」「親子で読書タイムを持つ。」「親子でおすすめの本を紹介し合う。」「児童が家族に読み聞かせをする。」などの親子読書の取り組み方を示し、各家庭の考えに合った形で取り組んでもらうようにした。

(5) 図書ボランティアによる読み聞かせの実施

4月から12月と2月に読み聞かせの日を1日ずつ設定している。(年間10回設定。水曜日の朝学習時間帯に実施。)3名の読書ボランティアが、低・中・高学年に1人ずつ入る形で行っている。児童が自分では選ばないような本や岩手の昔話などの読み聞かせもあり、いろんなジャンルの読書につながる良い機会になっている。

3 成果と課題

<成果>

- ・環境を整えたり、読書のきっかけを作ったりすることにより、読書に親しむ児童が増えてきている。

<課題>

- ・読書量の個人差が大きいことと手に取る本のジャンルに偏りが見られること。読書にあまり興味を持っていない児童でも、本を手にとってみたくなるような手立てや環境作りの工夫をしていきたい。

「子どもたちの読書意欲向上を図る取り組みを通して」

胆江地区SLA 奥州市立岩谷堂小学校

1 学校図書館の概要

本校は児童数589名の大規模校である。周囲を豊かな自然に囲まれ、教育的環境に恵まれた地域に位置している。図書室は2階の東側にあり、毎日多くの児童が利用している。蔵書数は約8200冊で、その他、各学級に学級文庫（江刺図書館からの貸出）を設置している。学校司書の管理の下で日常の図書の貸し出しや、図書委員会を中心とした取り組みなど、全校児童の読書意欲向上のための活動を行っている。

2 具体的実践内容

(1) 図書委員による取り組み

① 読書郵便（6月）

おすすめの本の題名と作者名、内容、おすすめするわけをはがきに書いて読書郵便ポストに投函する。

② 読書スタンプラリー（11月）

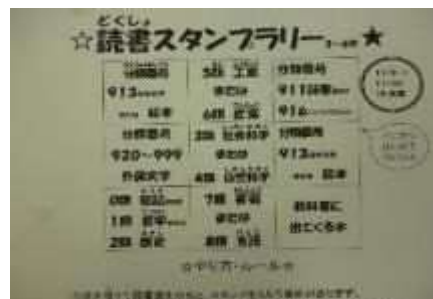
決められた期間中に、様々な分類の本を読む。1冊読むごとにスタンプをついてもらう。スタンプを9つ全部もらうと、特典として、2学期中いつでも本を2冊借りられる「2冊貸出券」をもらうことができる。

(2) おすすめの本コーナーの設置（季節ごと）

図書委員おすすめ本を紹介するコーナーを設置している。ブックスタンドを使い、表紙が見えるように展示している。



読書ゆうびんをポストへ



読書スタンプラリーカード

3 成果と課題

(1) 成果

- ・読書郵便では、本に興味をもち、児童同士の読書の輪が広がった。
- ・読書スタンプラリーでは、楽しみながら様々な分類の本に親しむことができた。

(2) 課題

これまでの取り組みでも図書室をなかなか訪れることがない児童に対し、どのようにして読書への興味関心をもたせるかの手立てが必要である。



図書委員おすすめの本コーナー

1 学校図書館の概要

本校は、児童数252名の中規模校である。令和2年1月から長寿命化改修工事を終えた新校舎に入り、12月には落成式を行っている。新校舎の図書室は、日本で初めて公共図書館を作った東山町ゆかりの青柳文蔵から、「青柳文庫」と名付け、児童に親しまれている。1階中央に位置し三方をガラスで囲まれ、中の様子が廊下から見える作りで開放的である。また、入り口付近には、「やまゆりホール」というオープンスペースがあり、児童がベンチに座って思い思いのスタイルで本に触れる場所になっている。蔵書冊数は、9,738冊である。

2 具体的実践内容

(1) 本に親しむ活動の工夫

ア 読みたくなる読書環境づくり

- ・館内掲示による本の紹介や配架の工夫、季節に応じた掲示、新刊図書の選定など、児童の実態に合わせて読書普及員、図書担当職員、図書委員会の児童が協力して行っている。

イ 読みたくなる読書指導

- ・平日（木曜日を除く）掃除終了後10分間を読書の時間に設定し、児童は好きな本を読んでいる。
- ・読書普及員による絵本給食の読み聞かせを、全校に向けテレビ放送で行った。
- ・PTA教養部により「夏休み親子読書」に取り組んでいる。

ウ 図書委員会の活動

- ・11月の読書祭りでは、読書ビンゴ、しおりのプレゼント、図書クイズ、低学年への読み聞かせなどを行っている。6月と10月には、おすすめの本の紹介をしている。3月には、多読賞の表彰を行っている。

(2) 市立図書館との連携

ア ネットワークシステムを利用した本のリクエスト

イ 授業等で活用できる関連図書の借用。

ウ 各学年及び教科における活用

- ・市立図書館の見学、施設利用、マナーの指導
- ・巡回図書「やまゆり号」の利用
- ・読書感想文の掲示



【明るく開放的な図書室】



【おすすめの本の紹介】



【やまゆりホールで本に親しむ児童】



【図書委員による読み聞かせ】

3 成果と課題

(1) 成果

- ・学校図書館が新しくなり、明るく開放的な図書館環境を作ることができた。また、図書委員会の読書祭りの活動や読書普及員の読み聞かせなどにより、本に親しむ機会が増えた。

(2) 課題

- ・個々の利用の様子を見ると個人差が大きい。なかなか図書室へ足が向かない児童、家庭での読書時間が少ない児童への手立てを考えたい。
- ・コロナ渦の影響でできなかった読み聞かせボランティア「お話たまたまばこ」の機会を再開させたい。

1 学校図書館の概要

本校は、特別支援学級3学級を含めて10学級、児童数は154名である。学校図書館は校舎2階にあり、蔵書数7,456冊である（令和2年9月30日現在）。学校図書館だけでなく、各教室に国語教材の関連本を配架したり、市の移動図書館から本を借りて配架したりしている。また、東日本大震災から10年が経とうとしているが、個人や団体から毎年多くの図書を寄贈していただいている。

2 具体的な実践内容

(1) コロナ禍に対応した環境整備

市の図書館教育指導員の協力を得て、密にならないような図書館の環境整備や活動を行った。具体的には次の5点である。

- ・閲覧のための椅子を対面にならないよう斜めに配置し、空いている席には、「本の椅子」として向きを変え、図書委員のおすすめの本を置いた。
- ・手指消毒用のアルコールを入りに置き、入室の際に消毒をすることとした。また、窓を開けて換気をし、窓を開けられないときには換気扇を回した。
- ・密にならないよう、昼休みの貸出を低学年の日・高学年の日と曜日で分けた。（月・水・金は低学年、火・木は高学年）
- ・雨の日の業間休みの学校図書館開放も同様に割り振った。
- ・委員会主催の図書祭りでは、例年低・中・高学年の3つに分け3日間の開催であったが、今年は1学年ずつ6日間とした。読み聞かせや、本探しのゲームを行った。



(2) 読み聞かせ

毎月一度、読み聞かせボランティアのみなさんに来て頂き、朝活動時間に各教室（7教室）で読み聞かせをしていただいている。児童はもちろんであるが、ボランティアのみなさんもマスク着用で行っている。



(3) 市の移動図書館の利用

毎月一度、移動図書館の車に来て頂き学級毎に本を借りている。選書は児童が行うが、各学級3名に限定し、車内が密にならないよう、学校図書館担当が調整しながら選ばせている。（1年生は、市立図書館の職員の方に選書して頂いている。）

(4) 目標を設定しての読書活動

まなびフェストに対応し、児童は、読書目標（学年の目標冊数、個人の目標冊数）を設定して読書に取り組んでいる。読書冊数は、学校図書館から借りた本の冊数と、「読書記録」の冊子に学級文庫や家庭読書を記録した冊数の合計である。学年の目標冊数は、1・2・3学期に分けて、学期毎の多読賞（上位3名）や読破賞（年間目標の達成者）を贈っている。また、掃除の後5校時開始前の10分間を「読書の時間」として確保している。

(5) おすすめの本の紹介

「よねさき読書の木」を廊下に掲示し、学期毎に、葉っぱや花・実の形をした用紙に、全校児童が記入し、貼りつけている。また、夏休みと冬休みには、読んだ本の中から1冊を紹介カードに書き、学年代表2名のカードは図書館前に掲示している。



(6) 親子読書

陸前高田市立高田東中学校区の4校で取り組んでいる「ノーメディア週間」（年3回、テレビやゲーム・スマホなどを消して、学習や読書に取り組む週間）と一緒に、親子読書に取り組み、ノーメディアのカードの裏面に記録している。

3 成果と課題

- ・コロナ禍の中でも、児童の読書意欲は高く、学校図書館に本を借りに来る子が多かった。学年の読書目標達成者は、1学期は86％、2学期は85％であった。
- ・掃除後の読書時間により、落ち着いた雰囲気のまま、5校時の学習に移ることができていた。
- ・課題は、今後も新型コロナウイルス感染症の状況に応じた対策をとっていくことと、読書冊数の増加だけでなく、発達段階に応じた選書となるよう内容面での高まりを図っていくことである。

1 学校図書館の概要

本校は、児童数 118 名、8 学級（特別支援学級 2 学級を含む）の学校である。図書室は北校舎 3 階の東側に設置されている。毎日のように図書室に通う低学年の児童も多い。

2 具体的実践内容

（１）朝読書・読み聞かせの取り組み

毎週月曜日の朝活動の時間に実施。

読み聞かせは低学年で実施。（今年度は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため未実施）

（２）学級文庫の充実

各学級に、市立図書館の巡回バス「かもしか号」と、地域の読書ボランティア「おはなしころりん」より常時図書が置かれ、自由に読むことができる。また、国語の教科書関連の本も教室に設置している。学習に必要な図書を学級単位で貸し出すこともあり、様々なジャンルの本や学習に必要な本をすぐ手に取ることができる環境を作るようにしている。

（３）読書目標の設定

学年毎に目標冊数（低学年 120 冊、中学年 80 冊、高学年 40 冊）を設定し、たくさん本を読むように呼びかけている。目標冊数を超えた児童には多読賞を贈っている。

（４）読み聞かせの実施

6 月の梅雨の時期に、図書委員会の児童が紙芝居の読み聞かせを実施。雨天の日のみの実施で、室内での過ごし方の一つに設定し、より多くの児童が図書室に足を運ぶように工夫している。

（５）読書月間の実施

11 月に図書委員会主催の読書月間を実施。児童朝会でおすすめの本を紹介したり、スタンプラリーやぬりえコンテストなどを行ったりして、図書への関心を高める取組を進めている。

（６）読書の記録の掲示

廊下に読書の記録を掲示し、自分や友達がどんな本を読んでいるのか、何冊ぐらい読んでいるのかなどが分かるようにしている。担任も児童の読書冊数や読書傾向を把握しやすく、図書室に通うように促したり、本を薦めたりするのに役立っている。

（７）親子読書の実施

冬休み中に親子で読書をすることを推奨し、「親子読書カード」に取り組んでいる。同じ本を読んで、親子で交流する機会としている。



3 成果と課題

教室には常時 50 冊以上の本が置いてあり、児童はたくさん本を読むことができる。図書室に足を運ぶ児童も多い。

しかし、高学年になると、読書に対する意欲や環境において個人差が目立ってくる。また、図書館の蔵書は古い本が多く、児童の興味関心や時代にそぐわないものも多いため、図書室の環境整備が必要である。

1 学校図書館の概要

本校は、児童数145名、全8学級（特別支援学級2含む）である。図書室は、3階建ての2階にあり低学年フロアに位置している。利用しやすい場所だが、図書室として設計された部屋でないため、強度が足りず、配架に工夫が必要である。

蔵書冊数は、約9,200冊であり、昨年度バーコード化したことで貸し出しもスムーズに行われるようになった。

市立図書館の移動図書館「しおかぜ号」も利用しており、読書環境は整っている。

2 具体的実践内容

(1) 日常の読書推進活動

- ・1年間の目標冊数（低学年60冊、中学年50冊、高学年30冊）を設定している。学期毎に多読者を紹介し、学年末には目標達成者を表彰する。
- ・週末は、2冊借りることができるようにし、低学年では台本板を2つ用意する。
- ・委員会活動として、人気の本のアンケートを取って紹介したり、おすすめの本コーナーを設置したりする。
- ・児童が本を探しやすいように、低い位置に並べる・表示をつけるなど配架に配慮する。

(2) 「図書館へ行こう週間」〈10月の1週間〉

- ・図書委員会で企画したイベントを行い、読書への関心を高める。

図書クイズ 低・中・高学年用の問題を作り、答えのある本の近くに貼る。全問正解者に、2冊貸し出し券をプレゼントする。

図書ビンゴ 読んだ本の図書分類の数字でのビンゴ。ビンゴ数でしよりのプレゼントをする。

- ・期間中朝読書の時間を設定し、その中で担任以外の先生による読み聞かせを行う。

(3) 長期休業の親子読書

- ・夏休み・冬休みに、親子読書カードを使った親子読書を行うとともに、図書だよりで取り組みの様子を伝え、家庭での読書を推進する。

(4) 学級文庫の設置

- ・教科書の改訂に伴い、教科書で取り上げている図書を優先的に購入し学級文庫に配架する。次年度以降も継続して増やしていく。

3 成果(○)と課題(●)

○学級での働きかけもあり、目標冊数を意識して本を借り、読むことができています。1学期は、ほとんどの児童が目標冊数を達成することができた。

○図書委員会が、日常の貸し出しや整理の他、アイデアを出しながら本に親しめるような活動に取り組み、図書室の利用も増えてきた。

●読書冊数・図書館利用は増えているが、年齢にふさわしい読書とはいえない。配架を工夫し利用しやすい図書館にしていくとともに、担任と連携しながら望ましい読書習慣を付けさせていきたい。

1 学校図書館の概要

本校は、今年度4月に6校が統合して設置された全校児童349名、各学年2学級に特別支援2学級の小学校である。各教室や廊下には、常時図書が置かれ、児童が朝読書、授業中や隙間時間など、いつでも気軽に本を手にとれるようにしている。また、朝読書の時間を設定したり、まなびフェストで年間目標読書冊数を設定したりするなど、読書意欲を高め、読書活動を活発にさせることをめざして取り組んでいる。

2 具体的実践内容

(1) 読書指導

ア 並行読書の推進（ブックトラックの設置）

並行読書に使う本（同一作者など）、教科書に紹介されている本や辞書のコーナー（ブックトラック）を各学年廊下に設け、いつでも手にとり、読めるようにする。



イ 学級文庫の設置

各教室に学級文庫を設け、各月や学期ごとなどに本を入れ替え、季節や学習に合わせたいろいろな分類の本を置き、児童が本と触れ合う機会を増やす。

ウ 読書の広がりファイル・必読図書リストの利用

図書室から本を借りるときは、「読書の広がりカード」に本の題名、日付、借りた場所を記入する。また、教科書に紹介されている本の一覧を載せた「必読図書リスト」を作成し、様々な分類の本を読む。（→各学期多読賞、年間読破賞として表彰）

エ 今月のおすすめの本コーナーの設置

月ごとにテーマを設けて、本を紹介する。

(2) 委員会活動

ア 読書月間の企画と推進

イ 読み聞かせ

ウ 児童集会の発表

(3) その他

ア 朝読書（登校後、朝の会の前）

イ 町立図書館の貸し出しを活用した調べ学習

ウ 家庭読書の啓発（週末読書）

3 成果と課題

○朝読書の継続により、集中して本を読み、読書の楽しさを感じる児童が増えた。

○読書の広がりファイル、必読図書リストの活用、読書月間の取り組みにより、目標をもって読書に取り組み、さらに、読書の幅を広げることができた。

●統合に伴い児童数が大幅に増加したため、閉校した学校から図書を受け入れる等蔵書の増加に努めているが、さらに図書整備が必要である。

●新型コロナ感染予防対策により、図書ボランティア、読み聞かせボランティアとの連携ができなかった。連携の仕方を工夫しながら読書指導の目標を共有し、学校図書館の運営を充実させていきたい。



「本に親しみ、進んで読書をする習慣を身につけさせる取り組み」

岩泉地区SLA 岩泉町立釜津田小学校

1 学校図書館の概要

本校は、全校8人の小規模校である。蔵書数は約5000冊と豊富で図書を手にしやすい環境である。だが、古い本も多く、子ども達から敬遠されている図書もあり、いろいろな種類の新しい本を購入している。図書委員会の働きかけで、図書室内に季節ごとの装飾をしたり、おすすめの本の掲示をしたりして、本に親しみをもてるよう環境整備をしている。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書の実施

金曜日の朝活動の時間に行っている。毎週、読書の時間を位置づけることで、本への興味や読書習慣を身につけている。

(2) 地域の方による読み聞かせ

月1回、地域の方が来て読み聞かせを行っている。自分たちが借りないジャンルの本の読み聞かせがされ、読書の幅を広げる良い機会である。子ども達は読み聞かせが大好きで興味津々で聞いている。

(3) 親子読書

長期休みには、親子で本に親しむよう親子読書を行っている。家でも読書の時間を設け、絵や文で互いに交流できる場をつくっている。

(4) 目標冊数の掲示

学期・年間で、学年ごとに目標冊数を決めている。目に見えてどのくらい借りているのが分かるよう掲示を工夫することで読書への意欲が高まっている。

(5) 図書委員会による活動

①おすすめの本の設置と紹介カード

- ・図書委員によるおすすめの本を掲示している。みんなが興味のあるような本を考えたり、図書委員が読んでほしい本を精選したりして掲示している。
- ・11月を読書月間にし、おすすめの本を紹介カードに書いてみんなに発表した。

②読書集会（隔年）

- ・本を読む大切さを自作でシナリオを作り表現したり、町立図書館の方からの読み聞かせを行ったり、優秀賞の読書感想文の発表を聞いたりして読書をする意図や楽しさに気づかせる活動を行っている。

3 成果と課題

成果 目標冊数を決め、装飾やおすすめの本の掲示、紹介カード等、図書室の環境を整備することによって子ども達の全員が目標冊数をこえて図書室を利用し、読書意欲にもつながった。

課題 冊数は増えているが、家庭での読書が不十分であったり、読む本のジャンルが偏っていたりする。家庭との連携を図る、必読図書を紹介するなどして読書習慣を身につけ、読書の幅を広げていきたい。



「読書への興味をもたせ、読書経験を広げるために」

久慈地区SLA 洋野町立種市小学校

1 学校図書館の概要

本校は、種市小学校・大和小学校・平内小学校・城内小学校が統合し、現在の全校児童数は229名である。図書室は、1階児童玄関付近にあり、児童や職員が毎日必ず通る恵まれた環境にあり、図書委員会や、毎週金曜日に来校する図書ボランティアが中心となって図書室整備を行っている。

2 具体的実践内容

(1) 図書委員会による活動

① 読み聞かせ（今年度は他学年交流を控えるため自粛）

月末の金曜日の朝活動時に読み聞かせを実施している。図書委員会が読み聞かせする学年の発達段階や季節、行事等を考えながらおすすめ本を選び、各学年に足を運んで読み聞かせをしている。知らなかった本との出会いの場となり、本への興味を高めている。

② 読書月間の取り組み

ア 図書館ビンゴ

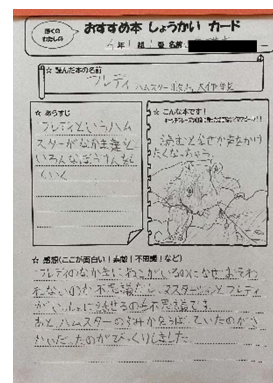
読書月間中の委員会企画として実施している。様々なジャンルの本に触れてもらうため、各分類番号と必読書の欄を設け、興味の幅を広げるよう工夫した。

イ おすすめ本紹介シート

1～3学年は【本の題名・好きな場面絵・感想】、4～6学年は【本の題名・あらすじ・キャッチフレーズや場面絵・感想】をまとめ、図書室前に掲示し、本選びの参考になるようにした。

ウ 図書祭り

図書室の使い方や本に関するクイズ、代表児童のおすすめ本紹介を通して、読書への興味を深めた。



【おすすめ本紹介シート】

(2) 図書ボランティア「レインボー」による活動

① 読み聞かせ（今年度は交流を控えるため、昼の放送で実施）

毎週金曜日の朝活動時に読み聞かせを実施している。保護者からもボランティアを募っており、読み聞かせを楽しみにしている児童が多い。また、読み聞かせた本やその時の様子について「読み聞かせノート」に残している。

② 図書整備・通信発行

作者名順に並べたり、分類がわかりやすいよう色分けテープを施したりと、児童が本を選びやすいように整備している。また、新刊の紹介や各棚の紹介など、通信で全校児童に発信している。



【図書ボランティア通信】

(3) 週末読書の推奨・必借日の設定

読書習慣の定着を目指し、週末は本を持ち帰り、家庭読書をすることにしている。また、学年ごとに必ず借りる日を週に1回設定することで、図書室に足を運ぶ機会をつくり、本との出会いを促している。

3 成果と課題

○ 読み聞かせや図書館ビンゴによって、様々な本を知ることができ、児童の興味を刺激することができた。また、おすすめ本紹介では、相手に伝えるために目的意識を持って読書をしようとする児童が多く見られた。週末読書の推奨によって家庭読書の姿が増え、家庭の読書に対する評価も上昇傾向にある。

● 「本を眺める」から「本を読む」に移行していける取り組みを考えたい。今回効果があったおすすめ本紹介を定期的に行うなど、じっくり読書をしたくなるような環境を整えていく必要がある。

生涯にわたる読書習慣を育てる図書館教育の工夫

二戸地区SLA 二戸市立仁左平小学校

1 学校図書の概要

本校は、児童数36、教職員数8、学級数5（うち複式学級2、特別支援学級1）からなる。学校図書館は、2階に位置しており、蔵書数は約5,840冊である。児童の図書・放送委員会を中心として、月・水・金の昼休み時間に図書の貸し出しを行っている。月に2度（4～5日間）、二戸市教育委員会より図書支援員が来校し、図書の管理や配架などをサポートしてくださっている。

2 具体的実践内容

（1）朝読書の実施

朝の会前10分間行っている。朝から本に向き合うことで落ち着いて一日のスタートを切ることができている。

（2）学級文庫の配置

国語の並行読書用の本や、社会・理科・総合的な学習の時間などに関わる図書を図書担当や担任が選定し、専用の移動書架に配置している。朝読書の時間にも、移動書架から児童が自由に取り出せるようにしており読書活動の充実を図っている。

（3）テーマに沿った本の展示や「図書に親しむまち推進事業に係る児童への図書」紹介コーナーの設置

1学期は「読書感想文の課題図書」、2学期は「新着図書」「図書に親しむまち推進事業に係る児童への図書」などのテーマを設定し、図書館や多目的ホールにコーナーを設置している。

（4）新聞の配架・掲示・活用【写真1】

図書館に1部（県内紙）、毎週火曜日に5・6年児童に1部ずつ（県内紙）を配架している。朝学習や家庭学習のテーマとして取り上げ、感想をまとめて交流したり、掲示したりしている。また、友達に伝えたいという意欲をもつ児童もあり、多様な情報選択活動になっている。



（5）読み聞かせボランティアの実施【写真2】

季節に合った絵本や興味・関心を惹きつけるような図書や手作り絵本など、年7回ほど各学級に読み聞かせの方に来ていただいている。本に興味をもち、読書への良い刺激をうながす機会となっている。

（6）二戸市図書館との蔵書交流

年度初めの1年生の貸し出しカードの作成、月2回の移動図書館での借用、年2回の古い本の学校図書館での借用（100冊）で、児童に人気の本が少ないのを補っている。

（7）図書委員会活動の充実

6月、11月に「読書月間」の活動をしている。委員会から、放送やポスターで呼びかけたり、「『おすすめの一冊』コーナー」を作ったりするなど児童からの働きかけも大切にしている。



3 成果と課題

（1）成果

- 朝読書や学習時に、必要な本が学校図書館や市の図書館から学級文庫に準備することができ、授業を充実させることができた。
- 図書にかえ新聞という新しい情報ツールで児童に学ばせることができた。

（2）課題

- 図書館整備の予算には限りがあるが、国語に偏らずに様々なジャンルの本に触れさせるように配慮し、読書環境が豊かになるような図書の選定や読書ツールを経験させるように努めていきたい。

「 図書館運営について 」

盛岡地区SLA 盛岡市立見前南中学校

1 学校図書館の概要

本校は、学級数 14（1～3 年各 4，特別支援 2）生徒数 406 名で、図書館の蔵書は約 11,000 冊です。図書館運営は図書館担当と図書委員会が中心となって行っています。

図書館は校舎 2 階の校庭に面した場所にあり、読書活動をする場所である他、学習活動の場ともなっています。また、職員の打ち合わせや会議、PTA 活動等にも利用されています。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書の取り組み

原則通年で朝の時間朝読書に取り組んでいます。通常は各教室で取り組んでいますが、順番に図書館も使えるようにして、図書館の本にも親しめるようにしています。読んだページを記入できるしおりを作り、個人で保管しています。

(2) 学級文庫の設置

図書担当が選書した 40 冊を各学級で学級文庫として設置しています。朝読書で全員が読むことができます。学年ごとに 1 ヶ月程度でローテーションする方法を実施しています。身近に本がある環境のために、多くの生徒が読書に親しんでいます。

(3) 委員会活動

図書館の図書利用に関わっている図書委員会は、各学級 1 名の生徒で構成され、以下の活動に取り組んでいます。

① 本の貸し出し

数年前からパソコンによる管理ができるようになりました。本の貸し出し・返却を図書委員が行っています。開館日は当番が責任を持って活動しています。また合間を見て本の整理などを行っています。今年はあるべく密をさけるため図書館の椅子を減らしたり、昼休み図書館利用が可能な学年を一つにしたりするなどの対応をしました。

② 図書館便りの発行

委員が図書館にある本の中から「おすすめの本」を選んで紹介する図書館便りを発行しています。委員が順番に紹介文を書いています。

(4) 図書担当としての取り組み

前期は、書架や図書原簿などの目で見える情報から、図書のジャンルのバランスを意識した図書の購入・入荷をしています。後期は生徒の希望図書も考慮しながらの選書を意識しています。また廃棄にも取り組んでいます。

3 成果と課題

〈成果〉

- ・生徒達の委員会活動に対する責任感が強く、自主的な活動が行われています。
- ・新学期最初は部活動もあまりできなかったため、頻繁に図書室を使用している生徒が多く、読書に楽しみを見いだす生徒が多数みられました。休み時間もよく読書に親しむ生徒が増えています。

〈課題〉

- ・棚の数にも限りがある中、新旧種々の蔵書があり、新本は古い書架に入らない大きさの本も多く、配置に工夫を必要としています。

1 学校図書館の概要

本校は、生徒数81名、5クラス（うち特別支援学級2）の学校である。図書室は3階の校舎東端にある。1年教室の隣室、2年教室と同階で親しみは持ちやすいが、昼休み以外は施錠している。毎日昼休みの25分間学習委員が開鍵し、貸し出し活動をしている。2014年にコンピュータ化されたため、それ以前の本は貸し出しプリントで対応している。

2 具体的実践内容

(1) 全校「朝読書」の取組

全校朝会やテスト週間を除く毎朝、8時20分から8時30分の10分間、全校で朝読書を行っている。8時10分に文化・報道委員が朝の放送をする際、朝読書の呼びかけもする。生徒は、図書室や自宅にある本を持ち寄って静かに読んでいる。生活の中で確実に本に触れる貴重な機会や時間になっている。

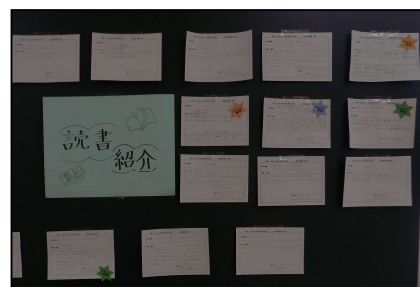
(2) 読書冊数の目標設定

ここ数年「1年間に24冊本を読もう」という目標を示し取り組んできた。2017年度は平均1人17.8冊だったが、2019年度は204冊に向上した。学校で取り組める時期が4月初旬～2月であることから、今年度は、「2月末までに20冊読もう」という目標に変更した。4月の国語の授業で年間の目標冊数を生徒に知らせ、読書記録用の葉を渡して、推進を促している。



(3) 読書を身近な存在にして盛り上げる工夫

- ① 年度2回全校生徒に購入図書のアンケートを実施する、書店の巡回図書に学習委員が同席し教師と共に選書するなど、生徒の声も生かした購入に留意している。
- ② 長期休み前、新しく本が入った時など、学習委員が全校朝会等で紹介する。
- ③ 夏休み明けと冬休み明けの年2回、全校・各学級でビブリオバトルとポップ作りをする。チャンプ本や紹介者が分かるように各教室前などに掲示している。
- ④ 各学級に図書コーナーを設置し、「いわ100」や辞書、検定問題集を整備している。



学級ごとに掲示されたポップ。

☆はビブリオバトルで上位になった本。

3 成果と課題

＜成果＞ (3)や読書記録用葉の工夫で、わずか

であるが、生徒が本の話をする姿が増えたり、読書冊数が増えたりしている。

＜課題＞ 読む本の種類に偏りがある。読書嫌いな生徒へのアプローチの工夫。

1 学校図書館の概要

本校は、全校生徒76名の小規模校である。図書室は、校舎3Fの一番奥に位置している。生徒の図書館利用は主に昼休みの20分間程度である。図書館を利用する生徒は多いとはいえない。位置的にも校舎の一番奥にあるため、なかなか足を運びにくいのが現状である。そのため、図書館内に靴を脱いでくつろげるスペースを作り、親しみやすい空間づくりに取り組んでいる。

2 具体的実践内容

（1）朝読書の取り組み

毎日8:20～8:30、朝読書を実施している。図書館の本を20冊程度、学級文庫として置いている。生徒は図書館の本だけでなく、自分の本を家から持ってきて読んでも良いことになっている。お気に入りの本のある生徒は、朝読書の時間だけでなく、昼休みにも進んで読んでいる。



（2）専門委員会との連携

本校では学習・図書委員会があり、生徒が週3回、昼休みの図書当番や、学級文庫のための選書活動、季節ごとのおすすめの本のディスプレイ作成、図書室の整備等を行っている。また、学期末には図書室の本を多く借りた生徒に読書賞を贈り、委員会で表彰している。



（3）教科学習との連携

国語科では年に1回、自分がおすすめる本のPOPを作成するという学習を、全校生徒が行っている。おすすめる本が図書館にない場合には購入して、生徒の興味関心に合った本をより多く整備することに役立っている。



3 成果と課題

（1）成果

- ・図書室の環境整備により、生徒がより気軽に図書室に来られるようになり、利用者が増えた。

（2）課題

- ・図書館の本を借りる生徒が限られている。また、年間の読書量は少ない。全校読書の時間を設けるなど、読書時間を確保する必要がある。



1 学校図書館の概要

本校図書館は、平成29年度に校舎改築に伴い新装した。校舎の中央部に位置し、常に生徒が行き来するところに設けられている。扉もなく、生徒が気軽に立ち寄りやすいようになっている。また、県産木材をふんだんに使用し、数カ所に点在する閲覧スペースやベンチ、円形テーブルなども設けられ、書架の近くで本を手に取り座って読むことができる自由接架式閲覧の空間デザインとなっている。広さ184㎡、蔵書可能冊数は16,953冊。現在、約13,400冊を保有する。

学校図書館司書教諭1名、常勤の学校図書館司書が在駐。蔵書点検や本の補修など館内整備に関わっては、町立図書館司書及び図書館ボランティアからのサポートを受け、配架や蔵書の状況は大変良い。学校図書館司書による館内ディスプレイも非常に整っており、月によって展示も変わっている。



2 具体的実践内容

(1) 学校図書館司書による館内ディスプレイ

ア 新着図書案内展示

- ・新着図書の面陳列
- ・貸し出し中でも常に新着図書ラインナップが見える、表紙のカラー代本カード。

イ 「我が家のおすすめ」「いわ100コーナー」の本展示

- ・生徒が往来する通路に面した展示棚に「いわ100コーナー」。

ウ テーマ展示コーナーの展示

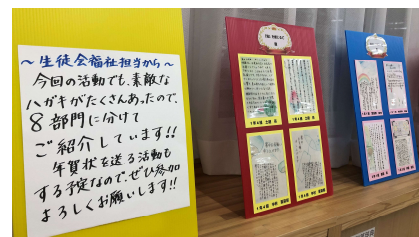
- ・行事、季節、教科学習関連など図書をを集め紹介するテーマ展示コーナー。
- ・本に挟んであるしおりにどんどん記名。生徒が生徒に本紹介できる「おすすめしおり」

エ 雫石町に関わる新聞の切り抜き展示

- ・雫石に関わる新聞の切り抜きの日替わり展示。

(2) 生徒による館内ディスプレイ

- ・約1.5mの扉付き閉架書架上をギャラリーとした生徒の学習展示。
- ・図書委員作成大型ポップ「おすすめ図書案内」と書籍の展示。



3 成果と課題

- (1) 施設環境が良いことに加え、常駐の学校図書館司書は書籍整備および館内ディスプレイ整備、学校図書館司書教諭は教科指導活用及び委員会指導や学校図書館利用に関わる生徒への指導と、役割分担が確立しており、図書館教育全体として非常に円滑に運営することができる。
- (2) 「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能が果たされるよう、町立図書館の図書館司書や図書館ボランティアからも学校図書館司書が支援を受け、整備が行き届いている。館内ディスプレイも年々充実してきている。
- (3) 館内の書架内にまだ空間がある。おすすめの本などはその空間を利用して面陳列と背差しを組み合わせ、より一層生徒に良本への関心を引きつけるディスプレイの工夫を図る。

(藤井 美幸)

1 学校図書館の概要

本校は紫波町の中央部に位置し、生徒数637名、22学級（うち特別支援学級2学級）の県内有数の大規模校となる。図書室は、西校舎1階に位置し、蔵書数は、現在約19000冊である。全図書をバーコードで管理しており、図書委員会を中心として、昼休みの時間に図書の貸し出しを行っている。週に一度、学校図書コーディネーターの方が来校し、図書室の環境整備活動をして下さっており、生徒の利用しやすい、明るい図書室となっている。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書の取り組み

朝読書の時間を8:20～8:30の10分間と位置づけ、各学級の図書委員が運営している。図書委員が、2分前に着席や本の準備を促し、教卓の脇の席に座り、朝読書を開始し、チャイムとともに終了する。朝読書が習慣化されており、全学級落ち着いた状況で読書に親しんでいる。また、学期の初めには、朝読書強化週間として朝読書に優先的に取り組む期間を設けている。

(2) POP コンクール

本に興味をもってもらい、読書活動が活性化することを目的として紫波町のPOPコンクールに合わせて、校内でもPOPコンクールを行っている。各クラスから集まったPOPを図書委員会で選考し、校内で選ばれた優秀作品は町のPOPコンクールに応募している。選ばれたPOP作品は図書室前の廊下に展示したり、POP作品の本を図書室に入れたり、読書活動の活性化を狙って取り組んでいる。



(3) みんなで取り組もう共同行動

昨年度から新しくはじめた取り組みである。アウトメディアに取り組んだ時間を読書にあてることで二酸化炭素削減に協力しようというものである。取り組みを行った期間の読書時間をクラスごとに合計し、本を読んだ時間分を「図書室の木」に葉っぱのシールを貼り、「図書室の木」完成を目指した。



3 成果と課題

〈成果〉

- ・級友や先輩のおすすめの本は、読書に対する興味・関心を喚起する。
- ・読書環境を整備することで、昼休みに、学校図書館を積極的に利用する生徒が増えてきている。
- ・図書が身近にあることで、朝読書の時間以外、休み時間などにも読書に取り組む姿が見られる。

〈課題〉

- ・持ち運びしやすい文庫本など、気軽に手に取れる本は生徒の人気の高いが、そこから、どのようにして、より深い内容、発展的な内容の本を手にとってもらうか、工夫が必要である。
- ・色々な読書企画を行っているが、企画によって参加人数に差がでている。より多くの生徒に興味を持ってもらえるように改善が必要である。

1 学校図書館の概要

本校は、全校309名の学校である。図書室は2階にあり、1教室分の広さである。図書委員会の生徒が当番制で貸し出しを行っている。月2回、地域の方が図書ボランティアとして図書館整備に来てくださっている。貸し出しは昼休みのみであるが、体育館を使えない曜日の学年の生徒を中心に来館するので、利用者は少ないわけではない。

2 具体的実践内容

(1) 委員会活動

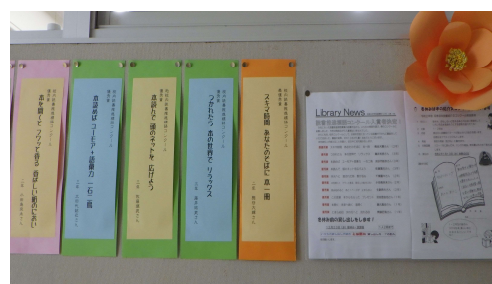
読書活動の推進のために、図書委員が朝読書の開始・終了の呼びかけや、期間を決めて点検活動を行っている。毎月11日前後は、復興教育の一環として「いきる かかわる そなえる」を全校で朝読書の時間に読んでいる。また、図書委員が選んだ15冊の本を学級文庫として設置し、1か月毎に入れ替えを行っている。図書室まで足を運ばなくても気軽に本に触れることができている。さらに、夏休みの校内読書感想文や冬休み読書紹介文の提出への呼びかけを行い、図書だよりで学級提出率を発表することで、提出率が年々上がってきている。年2回の読書冊数調べで多読者表彰も行っている。

(2) 図書ボランティアと連携した活動

図書ボランティアの方には月2回来ていただき「テーマ展示」「季節に合わせたディスプレイ」「新刊図書の紹介コーナー」など、生徒の関心をひくような環境を作っている。また、岩手県読書推進運動協議会主催の読書推進標語募集への応募と並行して、図書ボランティアの方を審査員に校内読書推進標語コンクールも行っている。入賞者は表彰すると共に、標語作品を図書室前に掲示している。



図書館便りと入賞標語作品の掲示



3 成果と課題

〈成果〉

- ・朝読書の定着や読書意欲の向上につながるような委員会活動ができた。
- ・図書ボランティアと連携しながら、読書推進の活動を行うことができた。

〈課題〉

- ・本校は自分で購入した本を持参して読書をしている生徒が多く、図書室の本を借りて読む生徒は固定化している。図書の紹介などを取り入れ、図書室利用の促進を図っていきたい。
- ・今年度から公共図書館の巡回文庫を利用しているが、その貸し出しは定着していないので、学級文庫と同様に「読まれる文庫」を目指した工夫をしていきたい。

1 学校図書館の概要

本校は、全校生徒数 145 名の学校である。図書室は、1 階の生徒が使用する水飲み場の奥にあり、毎日昼休みに開放し、本の貸し出しを行っている。蔵書数は、約 8,500 冊。その他にも、市立図書館からの蔵書や各学級に学級文庫を設置している。また、移動図書館やまどり号が定期的に来校し、生徒への図書の貸し出しを行っている。

2 具体的実践内容

(1) 継続した朝読書の実施

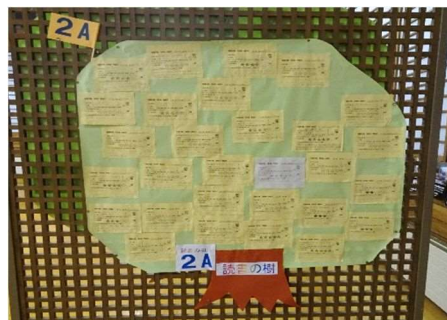
本校では、朝活動の時間（東中タイム）を利用し、朝読書を実施。持参した本や図書委員会が選書した学級文庫などを読んでいる。

(2) 読書の樹（委員会活動）

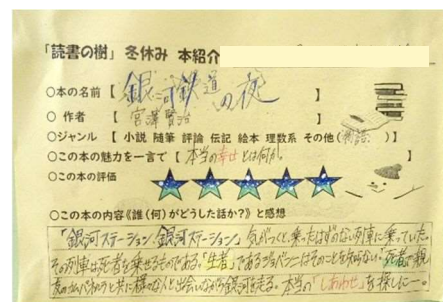
様々な本を知り、興味を持ってもらうことを目的に行っている。この活動は、長期休み期間を利用し、自分の読んだ本の魅力をレビューシートに記載し、掲示する。多くの生徒が図書室の本から選んでいるものが多く、図書室にある本を知るきっかけ作りとなっている。

(3) 本の電車 輝緑（教科の取り組み）

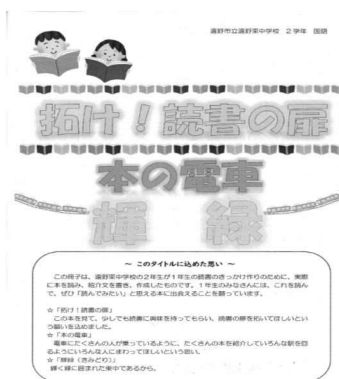
(2) と同様の目的として、2 年生の国語の授業の一環として「いわ 100」の本から自分が下級生におすすめしたい本を一冊選び、紹介文をまとめた冊子である。1 年生は、この冊子を読んだ上で、自分が読みたい本を選書し、実際に読んだ上での感想などをブックトークなどで交流し、今後の選書に活かそうとする意欲を高めることができた。



↑ 読書の樹 多くの生徒に見える場に掲示している。



↑ 読書の樹のレビューシート
読んだ本の感想や見どころを記載。



↑ 本の電車 輝緑



↑ ブックトークの様子。2人組で自分が選書した本の良さを交流している。



3 成果と課題

・読書推進活動を通して、様々な本を知り、手に取る生徒が増えてきた。また、互いの本の紹介をしあうなど読書に関しての意欲に向上が見られるようになった。今後も生徒が多くの本に出会えるように授業や委員会の活動を継続していきたい。

・一方で、電子機器の発達により活字から離れてきている傾向も見られている。継続して読書ができる環境を大切にしつつ、完全に離れることがないように工夫していきたい。

1 学校図書館の概要

本校は全校生徒 288 名の学校である。図書館の蔵書冊数は約 8600 冊で、全てデータベース化されており、コンピュータ処理で本の貸し出しや返却ができるようになっている。本の貸し出しは昼休みに限定されており、図書委員が当番制で貸し出し・返却作業を行っている。

学校図書館担当は 2 名である。また、4 名の保護者に図書ボランティアとして活動していただいております。書架整理や蔵書点検等、図書館運営にご協力いただいている。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書

毎朝、8:20～8:30 の 10 分間を朝読書の時間とし、図書館から借りた本や自分で購入した本等、各自で用意した本を読むようにしている。この時間に宿題をしたり、友人と話したりしないよう、図書委員が呼びかけを行っている。

(2) 委員会活動

ア 本を借りよう週間

月 1 回、この期間と期間中に借りる本の目標冊数を設定し、より多くの生徒に図書館を利用してもらおうと呼びかけている。

イ おすすめの本ポスター作り

学年ごとにおすすめの本を 2 冊選び、ポスターを作成。作成したポスターは各学年棟に掲示している。

ウ 欲しい本アンケート

全校生徒を対象に、図書館に入れてほしい本についてアンケートを実施。このアンケート結果を基に、担当教員が選書を行う。



(3) 図書ボランティアとの連携

書架整理や蔵書点検をはじめとした図書館運営にご協力いただいている。その他、新刊紹介や特設コーナーの設置、図書館内外の壁面装飾もしていただいている。

3 成果と課題

<成果>

- ・「本を借りよう週間」を月 1 回に増やしたことで、図書館の利用者数・本の貸し出し冊数が増えた。

<課題>

- ・「本を借りよう週間」の期間以外に図書館に来る生徒が少ないため、全校生徒が普段から取り組める活動を考える必要がある。
- ・授業で図書館を活用する機会がほとんどないため、授業でも活用できるように選書を行いたい。
- ・委員会と図書ボランティアの活動が別々になっているため、委員会と図書ボランティアが連携して特設コーナーを設置する等の活動を行いたい。

1 学校図書館の概要

本校は、生徒数 334 名、教員数 35、学級数 14（うち特別支援学級 3）からなる学校である。学校図書館は 2 F の中央に位置しており、生徒が利用しやすい位置にある。蔵書数は 10,890 冊である。全蔵書がデータベース化され、貸し出しや返却作業などはバーコードで管理している。朝、昼休み、長期休業中の貸し出しを行っている。図書委員が当番制で在室している。学校司書と連携しながら図書委員会が様々な企画を行い、読書活動の充実を図っている。

2 具体的実践内容

(1) 全校での朝読書取り組み

生徒自身が読みたい本を準備し、毎朝 10 分間、全校体制で行っている。各学級の図書委員が運営している。短時間ではあるが全学級落ち着いた環境の中で読書に親しんでいる。

(2) 図書委員会の活動

図書委員会では、生徒が「年間読破目標 20 冊」を達成できるように積極的に活動を行っている。その中で特色ある活動について紹介したい。

① 日直のおすすめの本紹介

毎日、朝の短学活で日直に本を一冊ずつ紹介してもらう。全学年で取り組んでいる。

② 前沢小学校 6 年生への本紹介

図書委員が、学校の図書館にあるおすすめの本をポップで紹介する。小学校に掲示してもらい、読みたくなった本紹介のポップにシールを貼ってもらう。

(3) 読み聞かせボランティアによる「読み聞かせ」「ブックトーク」による活動

奥州市の読書ボランティアによる「読み聞かせ」を各学級 2 回行っている。

また、本年度は学年毎に「ブックトーク」を行った。「仕事と職業」というテーマで、胆江ゆめネットワークの藤井江里さんから話をいただいた。読書に親しむだけでなく、働くことや職種についても視野を広げることができた。



3 成果と課題

【成果】図書館利用者を増やすために、日直の本紹介、先生方、生徒会、図書委員会の本の紹介、「読書月間」による集中的な取り組みや生徒からのリクエストをもとに図書委員が購入図書を選定するなど、アイデアを出しながら活動を行うことができた。朝読書以外でも隙間時間を利用して読書をしている生徒が多く見られたり、友達同士でおすすめの本の紹介をしている場面も多く見かける。昨年度は、年間読破率 58%, H30 は 49.3%, H29 は 45.8% と、年々成果は上がっている。

【課題】本が好きで、読書習慣のついている生徒とそうでない生徒の差が開いている。また、選書において委員会活動だけではなく、各教科との連携を図りながら読書指導についてさらに考えていく必要がある。

読書に親しむ生徒の育成 ～学校図書館の活用方法～

一関地区SLA

一関市立磐井中学校

1. 学校図書館の概要

本校は市内中央部に位置し、生徒数478名、学級数17学級（うち特別支援学級2）である。学校図書館の蔵書冊数は19,219冊であり、校舎の2階・3階に位置し、内部の螺旋階段で行き来することができる。開館時間は昼休みのみで、今年度は新型コロナウイルス対策のため、学年ごとに割り当ての日を決めて利用している。週2回勤務の読書普及員の協力のもと、蔵書の整備や市立図書館との連携を図っている。



2. 学校図書館活用の実践内容

（1）図書委員会活動での活用

①「学級文庫」の設置・管理

各学級に常設の学級文庫の管理を図書委員の生徒が行っている。チェックリストを用いて文庫の所在を確認し、学級に呼びかけをして回収している。今年度は学校図書館の蔵書から選書した「ローテーションセット」を作成し、月に1度新たな本が巡回するように取り組んでいる。

②「おすすめの本のポップ」作り

図書委員会の活動として、委員がおすすめしたい本のポップ作成を行った。対象を図書館内の蔵書に限定し、作成したポップは本と一緒に図書館内に展示している。また、図書館を利用しない生徒の利用促進につながるよう、全校生徒参加の「ポップ総選挙」を開催した。廊下にポップの複製を展示し、「読みたいと思えるポップ」を選んで投票してもらう形式にし、生徒の読書に対する意欲が喚起されるよう工夫した。



（2）読書普及員との連携による活用

①季節・時節に合わせた本の特集

図書館内の一角に特集コーナーを設置し、様々なテーマで選書した本を紹介していただいている。地区中総体のある6月には「スポーツ」をテーマにした物語作品や、各競技のテクニックを学べる本、8月には「戦争を考える」というテーマで物語作品や記録集などを展示した。

②市立図書館との連携

総合学習などの授業で本を使用した調べ学習を行う際、市立図書館の蔵書を借り受け、より多くの本から情報を得ることができるようにした。読書普及員には選書や市立図書館との受け渡しにも協力していただいた。

③新入生への図書室の使い方指導

1年生を対象に1学期に図書館内での本の探し方や、貸し出し方法を指導していただいている。



3. 成果と課題

【成果】図書委員会や読書普及員との連携により、生徒が様々な本に触れる機会が増えている。

【課題】貸し出し数は学年によって偏りがあるため、全校としての利用率・貸し出し率の向上を目指す。

1 学校図書館の概要

- (1) 学校規模 生徒数 33名 学級数 4（特別支援学級1含む）
教職員数 15名
- (2) 蔵書数 約 4500冊
- (3) 面積 62.05㎡（18坪）
- (4) 日本十進分類法NDCによる冊数の把握はしていないが、「9. 文学」の比率が多い。

2 具体的実践内容

- (1) 「マイブックを探せ」
 - ① 内容
地域の書店とタイアップし、図書館に置く本を生徒が選ぶ取り組み
 - ② 方法
 - ・広い部屋（多目的ホール）に、図書担当の生徒や全教職員が選んだ本を100冊並べる。
 - ・気に入った本があれば名前がついた付箋を貼る。
 - ・その本を読み、POPをかく。
 - ・購入後、図書室前にPOPと名前つきで展示する。
 - ・POPは地域の書店で使ってもらう
- (2) 「図書室へのいざない」
 - ① 内容
 - ・週に1度、学年ごとに朝読書を図書室で行う。
 - ・図書室の環境づくり
 - ② 方法
 - ・朝読書のときに担任が読み聞かせを行うことも。
 - ・季節に合った装飾をし、本の配置も合わせて変える。
 - ・仕掛け絵本や美しい細工のある絵本なども置く。

3 成果と課題

- (1) 成果
 - ① 書店が近くないことから、気に入った本を本屋で購入するようなムードをつくった。
そういう環境の中、自分で選んだ本なので、愛着がわいた。
 - ② だれがどの本を選んだのかをオープンにすることによって、お互いの理解が深まった。
 - ③ 図書室に定期的に通うことによって、新しい本とであうチャンスが増えた。
 - ④ 季節ごとに環境を変えることによって、図書室が生きている場所になり、生徒が足を向けやすくなった。
- (2) 課題
 - ① すき間時間に気軽な気持ちで行けるような配慮（時間的にも）が必要。
 - ② 「9. 文学」以外の本も増やしていく必要がある。4, 5も欲しい。
 - ③ タブレットPCとの使い分けの方法をまだ見出していない。

1 学校図書館の概要

本校は、震災後、米崎・小友・広田中学校の3校が統合し創立された学校で、生徒達は元気に学習や部活動に励んでいる。図書館は校舎2階のオープンスペースにあり、生徒達はいつでも自由に本に触れることができる環境となっている。図書室運営は主に図書委員会が担っており、意欲的な活動を行っている。また、図書館教育支援員が配置されており、図書館業務（選書のアドバイスや受け入れ、配架など）を行って頂いている。

2 具体的実践内容

（1）図書館の整備

図書委員が月1回、「図書委員が選ぶおすすめの本」というテーマでのディスプレイを行ったり、毎日の図書当番の際、書架の整理を行ったりと、利用者が使いやすい図書館、魅力ある図書館作りに努めた。

（2）朝読書の充実

本校では、朝読書の時間を8:20～8:30の10分間と位置づけている。各学級の図書委員が運営しており、2分前には着席や本の準備を促し、落ち着いた環境の中で読書に親しんでいる。また、学級文庫を設置し毎月本の入れ替えを行うなど、幅広いジャンルの本を手にする機会を設けている。

（3）積極的な図書紹介

今年度は、図書紹介に力を入れて活動した。まず「図書委員のおすすめの本」コーナーを設け、POPや掲示物を工夫しながら紹介した。また、話題の「映画やドラマの原作本」コーナーや、本屋大賞コーナーを設置し、より多くの生徒に興味をもってもらえるように努めた。さらに、絵本コーナーは、配架だけではなく、くつろいで本を手にとれるように椅子を配置するなど工夫を行った。

（4）授業での図書の活用

授業での活発な活用を心がけ、学習単元に応じて、図書館からのまとまった貸し出しを行った。また、授業時間内に図書館を利用し、調べ学習やまとめ学習にも積極的に活用してもらっている。

3 成果と課題

〈成果〉

図書委員と図書館教育支援員さんとの連携を図りながら、図書館運営に当たることで、多面的に読書活動にアプローチすることが出来た。また、図書紹介の掲示物や展示コーナーを設けることで、本を身近なものとして親しんでもらうのに効果的であった。生徒達のアイデアから、様々な活動ができたことは、今年度の大きな成果である。

朝読書は定着が図られており、全学級が静かに読書に取り組む雰囲気が出来ている。10分間と短い時間ではあるが、集中して本を読む力が培われている。

〈課題〉

図書館がオープンスペースということもあり、いつでも気軽に本を手にとれるという利点がある一方、落ち着いてじっくり本を選ぶという雰囲気に欠ける部分があるため、図書館の利用時間（昼休み）のありかたについて、検討を重ねていきたい。また、読書はもちろん、心を休める場としての図書館運営も進めていきたい。



Ⅰ 学校図書館の概要

- (1) 生徒数 172 名, 学級数9学級(特別支援学級を含む)
- (2) 図書室は教室等と特別教室棟を結ぶ2階にある。学年朝会等を行う多目的ホールの隣にあるため、生徒は比較的通りやすい場所にある。
- (3) データ化された蔵書管理がなされている。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書の実施

全校朝会、学年朝会のない週3日、朝8:20~8:30の時間帯に実施しており、静かに落ち着いた雰囲気の中で1日のスタートをきっている。学級文庫にある本(もしか号から借りている20冊)(学校図書室から借りているもの20冊)か、持参している本を読んでいる。

(2) 委員会活動

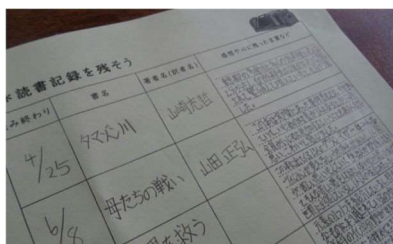
図書室の利用者を増やすため、おすすめ本紹介ポスターを作成し、教室付近に掲示している。昼休みを利用した貸出業務を行っている。もしか号や図書室から学級文庫用の選書を行っている。

(3) 図書だよりの発行

長期休業前の年2回から3回程度、図書だよりを発行して読書に対する意欲喚起に努めている。生徒の読書感想文を掲載したりもする。

(4) 読書記録

読んだ本のタイトルや負担にならない程度の一言感想を記録させている。自分の読書を振り返り、感想を積み重ねることは、自己の感性を豊かにしてくれると捉えている。



3 成果と課題

新しい本は各学級へ学級文庫として貸し出しているため、生徒が手に取る機会はつくれている。

ポスター掲示や図書だよりの読書意欲喚起の取組は行っているが、読書量の増加にはなかなか直結していない。朝読書の時間以外にも本に向かえる時間や興味を生み出していけるようにしたい。



1 学校図書館の概要

本校は、生徒数104名の小規模校である。本校の図書館は、生徒が本に親しむことを大きなねらいとしており、図書委員会が中心となって、毎日の昼休みの貸し出しや広報活動を行っている。

また、月に一度来校する、「図書館ボランティア」の方のおかげで、生徒の読書活動が、充実したものとなっている。

2 具体的実践内容

（1）図書の購入と受け入れ

新刊図書の選定については、年度はじめに、本校の職員から意見をもらうことと、生徒からの購入アンケートをもとに行っている。

また、図書館ボランティアの方は本校の卒業生であり、「後輩たちに良書に親しんで欲しい」という願いをもっている。蔵書についても詳しく把握しているので、新しい本の購入について、どの分類の図書を増やすと良いか助言をいただいている。図書の受け入れと配架にも携わっていただいている。

（2）校内の図書配架

図書館のスペースに限りがあるため、各学級にも学級文庫を配置している。また、もっと気軽に本を手にとってもらえるように、今年度は、各学年（各階）のラウンジにも図書コーナーを設置した。このコーナーに置く本の選定とコーナーのレイアウトは図書館ボランティアの方にご協力いただいた。

（3）委員会活動との関わり

始業前10分間の朝読書、毎日の図書の貸し出し、図書だよりの発行、図書の整理を、図書委員会の活動として位置付けている。委員会活動の時に、ボランティアの方が居る時は、ボランティアとして図書館整備をする想いを話していただく機会をもつようにした。「多くの生徒に図書室に足を運んでもらうにはどうしたら良いか」「本に親しんでもらうにはどうしたら良いか」について考える機会となった。図書館ボランティアからもアイデアをいただき、委員会として検討中である。

3 成果と課題

<成果>

- ・図書館ボランティアとの連携を図ったことで、図書館の整備を充実させることができ、一貫した取り組みを行うことができるようになった。

<課題>

- ・図書館整備のさらなる促進。
- ・図書館ボランティアと連携した、図書の利用指導。



図書館の配架



3階図書コーナー

「良書にふれ、本との出会いを楽しむ生徒の育成のために」

宮古地区S L A 山田町立山田中学校

1 学校図書館の概要

今年度10月に中学2年生（1学級を抽出）を対象に行われた「令和2年度岩手県子どもの読書状況調査」では、「あなたは、読書をすることを楽しいと思いますか」という質問項目において「読書が楽しい」と肯定的にとらえている生徒の割合は64.3%である。岩手県の平均（84%）と比べても、本校生徒の読書に対する意識には課題がある。

図書館は「ラーニングルーム」という名称で生徒に親しまれている。昼休みの本の貸し出しを行うだけでなく、下校スクールバスや迎えの保護者を待つ間、学習をする場所として活用する生徒が多い。毎年図書購入費が山田町の予算で割り振られ、新書やキャリア学習に活用できる図書を購入している。

2 具体的実践内容

（1）朝読書（8：20～8：30）

各自で本を選び、読書に取り組んでいる。全校朝会や学年朝会の日以外は原則毎日行っている。生徒たちは呼びかけや教師の声掛けがなくても、自ら本を手に静かに着席している。

（2）全校読書（各学期に1回）

24種類ある読書テキストを使用し、1時間の授業時間を使って読書に取り組む。事前に生徒にはアンケートをとり、読みたい本の希望調査を行う。読書後は感想用紙に感想を記入する。普段なかなか手に取る機会のない本を読んでほしい、また、同じ本を読んでも人によって捉えが違ふことを通して、読書の楽しさを感じてほしいというねらいのもとに行われている。



（本校3年生の全校読書の様子）

3 成果と課題

（1）成果

- ・朝読書、全校読書ともに、静かな雰囲気の中で集中して読書に取り組む雰囲気ができている。
- ・感想を書く際に単に「面白かった」だけではなく、物語の登場人物を自分に置き換えて考え、感想を持つ生徒が多い。

（2）課題

- ・朝読書は生徒が本を選んでいるため、教師が読ませたい本と生徒たちの読みたい本との間にギャップがある。「読書を行う意義」を折に触れて話していく必要がある。
- ・ラーニングルームを読書のために利用する生徒は少ない。利用の促進を目指したい。

1 学校図書館の概要

本校は全校生徒7名の小規模校である。校舎1階中央部のオープンスペースに暖炉があり、それを囲むような配置の壁面に図書コーナーが設けられている。皆が必ず通る場所であるので、生徒はいつでも本を目にしたたり手に取ったりすることができる。蔵書は約2500冊である。生徒の希望も取り入れて購入するほか、今年度は「いわ100」に掲載されている本を積極的に購入した。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書

月・水・金の8:20～8:30を朝読書の時間としている。(火曜日は全校朝会、木曜日はNIE)短時間ではあるが、生徒は集中して取り組んでいる。また、全校朝会で学校長が図書や作家を紹介する機会も多い。

(2) 読書冊数目標の設定と係活動

年度初めに月ごとの読書冊数目標(年間20冊を目安に)を生徒一人ひとりが設定し、廊下に掲示する。翌月の全校朝会で情報係が評価を発表している。また、情報係の取り組みとしてお勧めの本の紹介をしている。

(3) 季節に合わせたディスプレイと配架の工夫

図書担当者が季節ごとにディスプレイやポップを工夫して本の紹介を行っている。夏休み前には、読書感想文コンクールの課題図書コーナーを設け、感想文に取り組む意欲を喚起している。また、郷土コーナーや「いわ100」コーナーを設けるほか、部活動や災害関連など生徒の関心によって本を手に取りやすいような配架を工夫している。

(4) 岩泉町立図書館との連携

町立図書館から支援員が来校し、書架整理や図書の受け入れを行っていただいている。こちらも季節ごとにお勧めの本を紹介していただき、読書意欲が涵養されている。また、町立図書館の自動車文庫の巡回日には、来校時間に合わせて業間を10分延長し、生徒が本を選ぶ時間を保障しているため、利用率は100%である。「読書マラソン」の季節には全員が完走賞(4ヶ月で10冊)を目指して取り組んでいる。



3 成果と課題

(1) 成果

図書担当者による季節ごとのディスプレイを楽しみにしている生徒もおり、興味関心を持って本を手取るよいきっかけとなっている。読書冊数目標を設定し公表することが読書への動機づけとなり、短時間でも空いた時間に本を開く習慣の定着につながっている。

(2) 課題

県学調の質問紙の回答をみると、学校以外での読書時間は30分以下である。家庭と連携を図り、家庭でも読書の習慣化を図りたい。

1 学校図書館の概要

本校は、岩手県北部の太平洋に面した久慈市の南端の、三方を山に囲まれた自然豊かな地域に位置している。全校生徒は 33 名であり、久慈市内では最も規模の小さな中学校である。図書室は、1 学年から 3 学年の各教室がある 2 階の西側にあり、比較的生徒の出入りがしやすいため、朝は学習や本が好きな生徒たちが好みに座って静かに活動する様子も見られる。昼は学習委員会が当番制で本の貸し出し活動行っている。

蔵書数は、昨年度、古い図書の廃棄を行ったため、4 千冊程度と多くはないが、生徒数の減少に伴い、多すぎて窮屈な印象だった古いテーブルを廃棄し、適度な広さを作り清潔感のある空間になるよう工夫している。

2 具体的実践内容

(1) 全校での朝読書取り組み

毎朝 8:20~8:30 までの 10 分間を全校朝読書の時間に設定している。基本的には生徒が自分で読みたい本を用意して行っているが、小学校でも取り組んでいるためか、比較的落ち着いて読書する習慣が定着している。

(2) 巡回図書の活用

年に 8 回程度、久慈市立図書館の巡回図書館車「ぎんなん号」からの図書借り入れを行っている。学級文庫用として、基本的には 20 冊程度を図書委員が選書する。朝読書に本を用意できない生徒が利用することが多いが、古い本など、生徒が興味をもちそうな本を中心に、教室で級友との交流の話題にする姿も見られる。

(3) 学習委員会による「図書室のおすすめの本」活動

学期に一回、学習委員が図書室の本の中の一冊を選んで「おすすめカード」とともに配架する活動を行っている。友人が紹介する本は比較的借りて読もうと思うらしく、お薦めの図書はいつも貸し出し中のことが多い。



(4) 「いわ 100」コーナー、課題図書コーナー等の設置

改定された「いわ 100」で図書館になかった図書を昨年度新刊図書で購入し、ようやく「いわ 100」コーナーを作ることができた。「いわ 100」に関連する作家の図書や、テーマに沿った図書を近くに配架し、手に取りやすいように工夫している。また、読書感想文の歴代の課題図書コーナーも作り、「なにを読んだらいいかわからない」という生徒へのアドバイスに活用している。



(5) 全校生徒のリクエストによる新刊図書の購入

全校生徒数の少なさを利用し、全員のリクエストした図書を購入する取り組みを初めて行った。委員会の活動として取りまとめ、全てのリクエスト図書の購入がそろい次第、全校生徒に一齐に本を手渡し、リクエスト本の紹介やおすすめの理由を行う伝えあう活動を行う予定である。

3 成果と課題

(1) 成果

古い本の廃棄をし、新しい配架の工夫や、コーナーの設置を行うことで、生徒が「読んでみたい」と思って図書を手にする環境を整えることができた。また、生徒同士の本の紹介やリクエストなどの活動は、読書に興味を持たない生徒への読書意欲喚起に一定の効果がある。

(2) 課題

全校生徒リクエストの新刊図書購入が年度後半になってしまった。できれば夏休みの前には少なくとも生徒のリクエストによる新刊図書を図書室に入れ、夏休みの読書に役立たせたい。

1 学校図書館の概要

本校は軽米小学校、晴山小学校、小軽米小学校の3校の卒業生203名が在学する町内で唯一の中学校である。

町では、小学生を対象とする「子ども司書講座」があり、積極的に図書に触れあう経験をしている生徒もいる。小学生のころから町の図書館の活用や、図書・読書に関心を持っている生徒が多い。

生徒会組織の一つを担う広報図書委員会があり、図書の貸し出し、校内放送、壁新聞コンクールの運営にも携わっている。

町の図書館とも連携し、学校図書館の運営を支援していただいている。

2 具体的実践内容

(1) 朝読書の実施と学級文庫の設置

朝8:15～8:25までの10分間を朝読書の時間と位置づけ、生徒・教師ともに読書に取り組んでいる。学級でいつでも読書ができるように、学級文庫として図書館から20冊を学級に配置している。

(2) 長期休業前の集中貸し出し

夏休み前に、図書館の中に特設コーナーを設置し、図書の貸し出しを行った。感想文が課題でもあるので、関心のあるテーマの図書を借りていく生徒が多い。

(3) 新聞の配置

7社の新聞を毎日日替わりで各学級に配置している。短学活でのニュースや、文化祭等で新聞づくりをするうえで参考にしている。

(4) 町立図書館との連携

毎月町立図書館から図書支援員さんが来校し、配架、新刊図書の受け入れや図書館のレイアウト・掲示に携わっていただいている。また、町の図書館と連携し蔵書管理を行っている。



3 成果と課題

- ・配架の工夫・新刊図書の受け入れを早くすることで、新しい本を手にとって借りていく生徒が増えた。また、学級文庫の設置は、朝読書や読書の推進に有効であった。個人差も大きく、「年間24冊」の読書目標の達成が困難な生徒への働きかけが課題。
- ・学習センターとしての機能的な図書館づくりを考えていく必要がある。

令和2年度
学校図書館の活用にかかる
実践事例集

令和3年3月5日発行

岩手県学校図書館協議会

〒020-0851 盛岡市向中野二丁目39番27号
(盛岡市立向中野小学校内)

TEL 019-635-8510

FAX 019-635-8512

E-mail info@iwate-sla.jp